



*Sophia University*

# これからの小学校外国語教育

吉田研作(上智大学)

yosida-k@sophia.ac.jp

<http://pweb.sophia.ac.jp/1974ky>

# グローバル化に対応した英語教育改革実施計画(平成25年12月13日発表)

資料4

初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図る。

2020年(平成32年)の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、新たな英語教育が本格展開できるように、本計画に基づき体制整備等を含め2014年度から逐次改革を推進する。

## 1. グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方

### ○小学校中学年:活動型・週1~2コマ程度

- ・コミュニケーション能力の素地を養う
- ・学級担任を中心に指導

### ○小学校高学年:教科型・週3コマ程度

(「モジュール授業」も活用)

- ・初歩的な英語の運用能力を養う
- ・英語指導力を備えた学級担任に加えて専科教員の積極的活用

※小・中・高を通じて一貫した学習到達目標を設定することにより、英語によるコミュニケーション能力を確実に養う

※日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実(伝統文化・歴史の重視等)

### ○中学校

- ・身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養う
- ・授業を英語で行うことを基本とする

### ○高等学校

- ・幅広い話題について抽象的な内容を理解できる、英語話者とある程度流暢にやりとりができる能力を養う
- ・授業を英語で行うとともに、言語活動を高度化(発表、討論、交渉等)

## 2. 新たな英語教育の在り方実現のための体制整備(平成26年度から強力に推進)

### ○小学校における指導体制強化

- ・小学校英語教育推進リーダーの加配措置・養成研修
- ・専科教員の指導力向上
- ・小学校学級担任の英語指導力向上
- ・研修用映像教材等の開発・提供
- ・教員養成課程・採用の改善充実

### ○中・高等学校における指導体制強化

- ・中・高等学校英語教育推進リーダーの養成
- ・中・高等学校英語科教員の指導力向上
- ・外部検定試験を活用し、県等ごとの教員の英語力の達成状況を定期的に検証
- ※全ての英語科教員について、英検準1級、TOEFL iBT 80点程度等以上の英語力を確保

### ○外部人材の活用促進

- ・外国語指導助手(ALT)の配置拡大、地域人材等の活用促進(ガイドラインの策定等)
- ・ALT等向けの研修強化・充実

### ○指導用教材の開発

- ・先行実施のための教材整備
- ・モジュール指導用ICT教材の開発・整備

小・中・高の各段階を通じて英語教育を充実し、生徒の英語力を向上(高校卒業段階で英検2級~準1級、TOEFL iBT57点程度以上等)

→外部検定試験を活用して生徒の英語力を検証するとともに、大学入試においても4技能を測定可能な英検、TOEFL等の資格・検定試験等の活用の普及・拡大

## 3. スケジュール(イメージ)

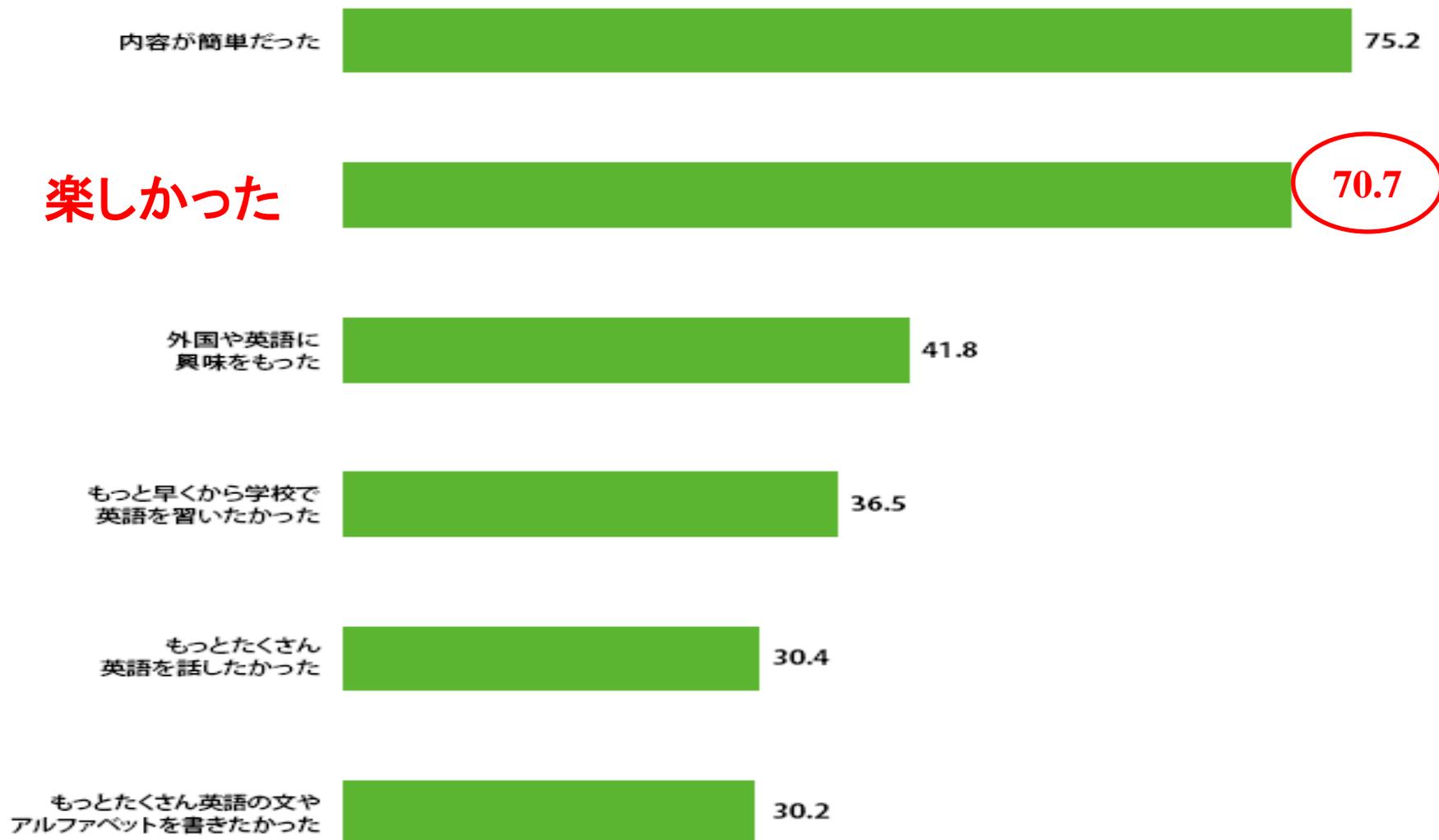
- 2014年1月頃 有識者会議設置
- 2014~2018年度 指導体制の整備、英語教育強化地域拠点事業・教育課程特例校による先取り実施の拡大
- 中央教育審議会での検討を経て学習指導要領を改訂し、2018年度から段階的に先行実施
- 東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせて2020年度から全面实施

# 小学校英語活動の現状と評価

# Q. 小学校での英語の授業や活動はどうでしたか。

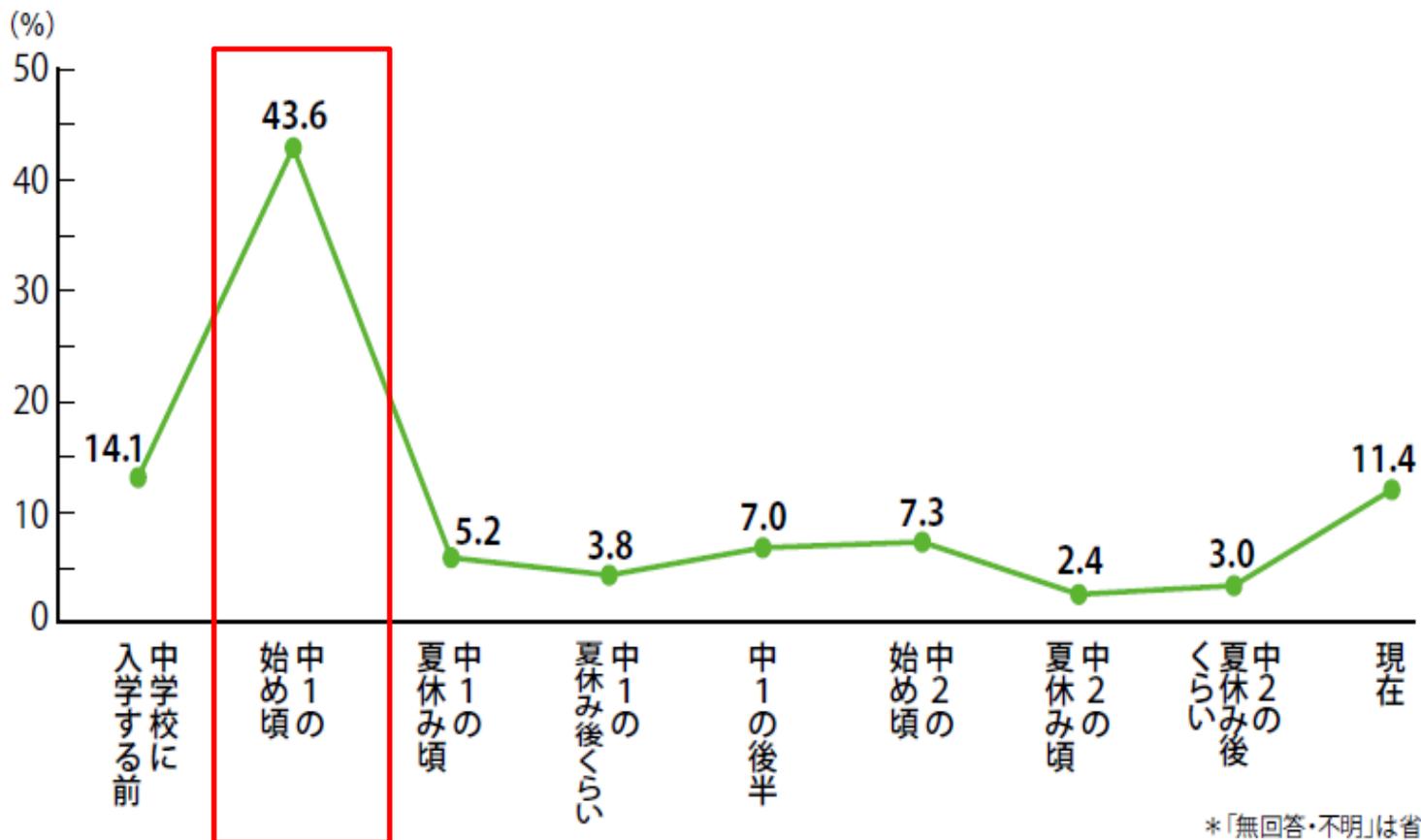
図1-1 小学校英語に対する意識

(%)



# 英語の勉強に対してもっともやる気が高かった時期

図2-7 もっともやる気が高かった時期

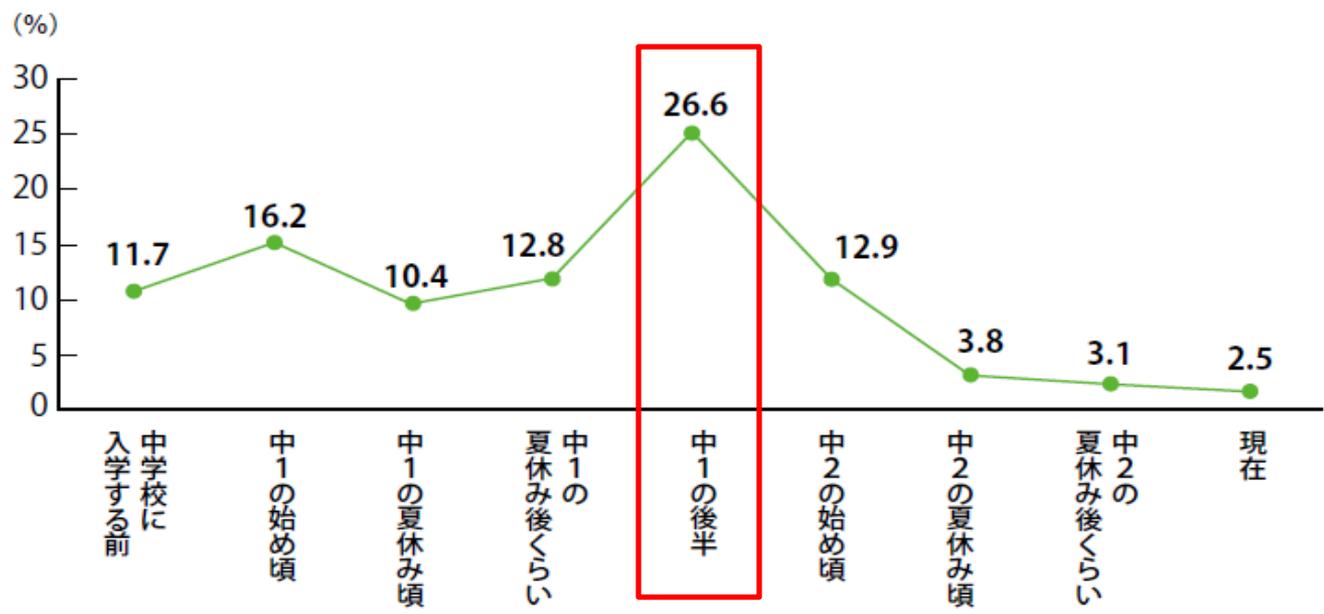


\*「無回答・不明」は省略。

\*「現在」は、本調査を実施した1～2月(中2の後半)を示す。

# Q 英語が苦手と感じるようになったのはいつ頃からか

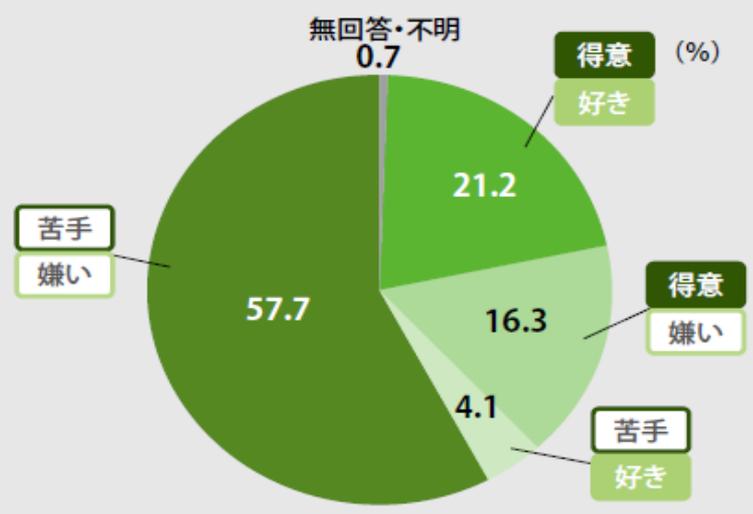
図2-4 英語を苦手と感じるようになった時期



\*「現在」は、本調査を実施した1～2月(中2の後半)を示す。  
 \*英語の「得意・苦手」について「やや苦手」「とても苦手」と回答した1,833名のみを対象。  
 \*「無回答・不明」は省略。

図2-5 英語に対する認識

「得意」「苦手」「好き」「嫌い」をもとに、英語に対する認識の4タイプを作成した。詳細は以下の通りである。  
 「あなたは英語が得意ですか、苦手ですか」という質問(図2-3)で「とても得意」「やや得意」を選択した場合を「得意」とし、「やや苦手」「とても苦手」を選択した場合を「苦手」としている。「あなたは、どの教科が好きですか」という質問(p.10 図2-8)で、「英語」を選択した場合を「好き」、選択しなかった場合を「嫌い」としている。「嫌い」と回答しているわけではないが、ここではわかりやすさを考慮して、「嫌い」と表記している。



# つまづきやすいポイント

(%)

英語に対する認識別



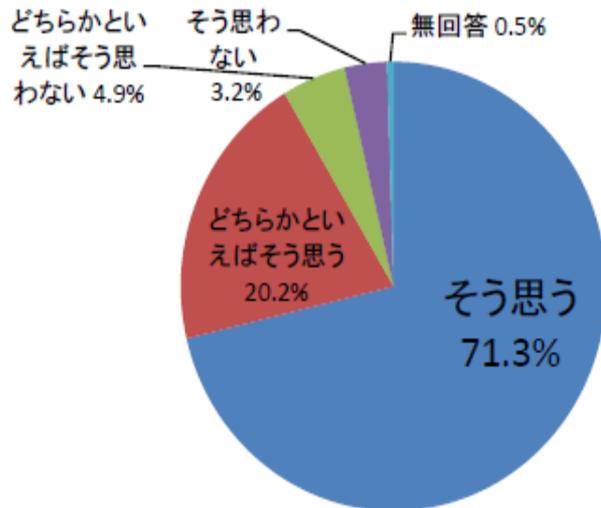
# 小学校英語導入の成果

文科省

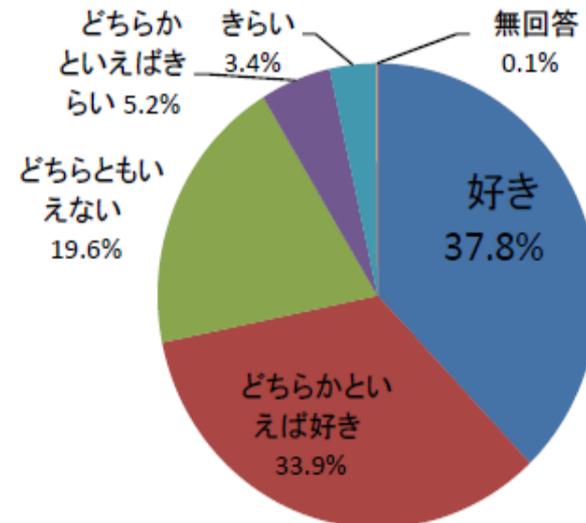
## 児童・生徒の英語学習に関する状況

◆外国語活動の授業や英語について肯定的な考えを持つ児童の割合は約7割である

Q. あなたは、英語が使えるようになりたいですか。



Q. あなたは、英語の授業が好きですか。



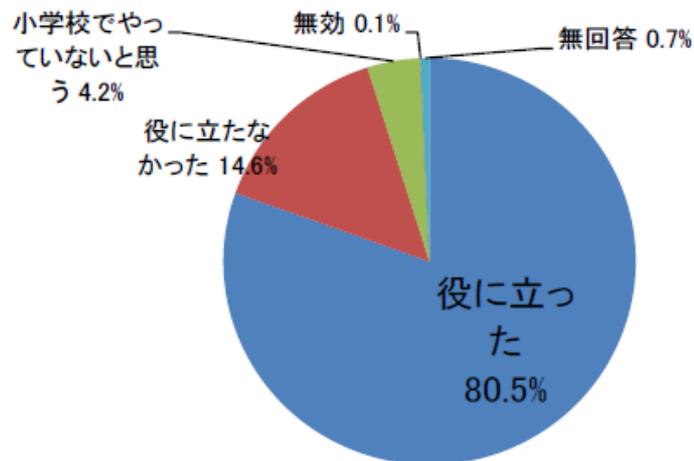
出典：小学校外国語活動実施状況調査(H24年2月～3月)

# 児童・生徒の英語学習に関する状況

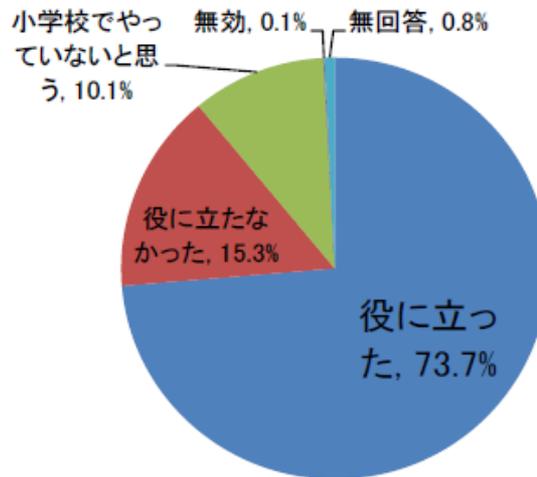
◆中学生の約8割が小学校外国語活動で行ったことが。中学校外国語科で役立っていると考えている。

Q. 小学校の英語の授業で学んだことの中で、中学校の英語の授業で役に立ったことはありますか。

「英語で簡単な会話をする事」



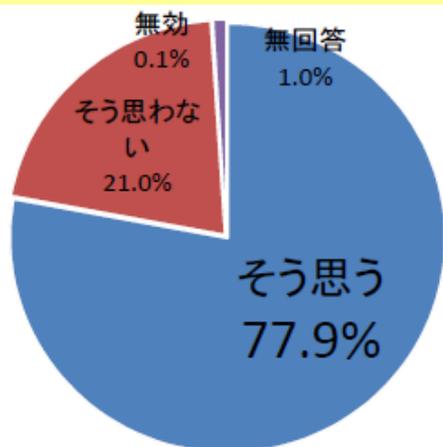
「英語の発音を練習すること」



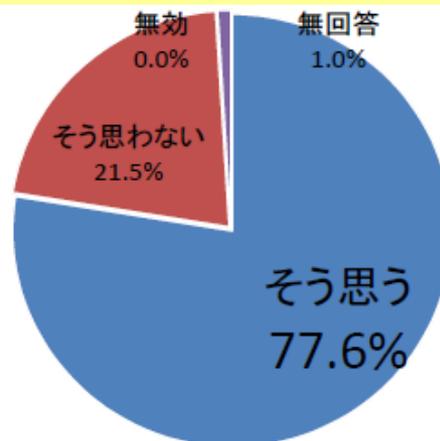
◆7割以上の生徒が、小学校で英単語や英語の文を読んだり書いたりしたかったと思っている

Q. 小学校の英語の授業でもっと学習しておきたかったと思いますか。

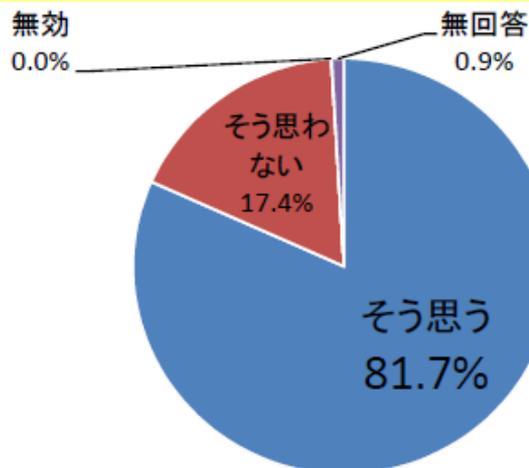
「英単語を読むこと」



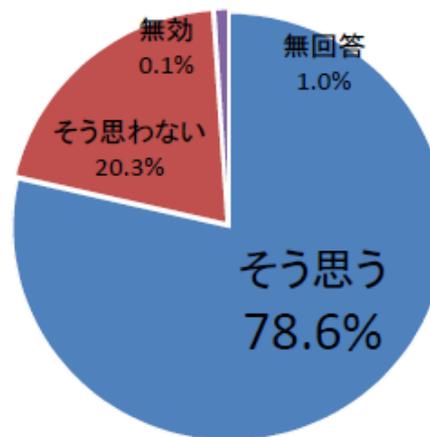
「英語の文を読むこと」



「英単語を書くこと」



「英語の文を書くこと」



出典：小学校外国語活動実施状況調査(H24年10～12月)

# 中学校外国語科担当教員が感じる生徒の変容

◆8割近い中学校外国語科担当教員が英語の授業において生徒に変容がみられたと考えている

Q. 小学校において外国語活動を経験して入学した第一学年の生徒は、外国語活動導入前の第一学年の生徒と比較して英語の授業において変容がみられましたか。

	件数	構成比	} 77.8%
とてもみられた	530	18.3%	
まあまあみられた	1720	59.5%	
あまりみられなかった	538	18.6%	
まったくみられなかった	36	1.2%	
無効	0	0.0%	
無回答	69	2.4%	

Q. どのような成果や変容がみられましたか。

◆英語の授業において、6割強の中学校外国語科担当教員が外国や異文化に対して興味を持っている、8割近い中学校外国語科担当教員が英語の音声に慣れ親しんでいると考えている

Q. 外国や異文化に対して興味を持っている(言語や文化に対する体験的な理解が深まっている)

	件数	構成比	} 62.6%
そう思う	490	16.9%	
どちらかといえばそう思う	1321	45.7%	
どちらかといえばそう思わない	455	15.7%	
まったくそう思わない	20	0.7%	
無効	0	0.0%	
無回答	606	21.0%	

Q. 英語の音声に慣れ親しんでいる

	件数	構成比	} 77.8%
そう思う	1052	36.4%	
どちらかといえばそう思う	1064	36.8%	
どちらかといえばそう思わない	165	5.7%	
まったくそう思わない	3	0.1%	
無効	0	0.0%	
無回答	608	21.0%	

# 中学校外国語科担当教員が感じる生徒の変容

◆7割強の中学校外国語科担当教員が英語の授業において英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されている、英語で活動を行うことに慣れていると考えている

Q. 英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されている

	件数	構成比
そう思う	790	27.3%
どちらかといえばそう思う	1319	45.6%
どちらかといえばそう思わない	167	5.8%
まったくそう思わない	13	0.4%
無効	0	0.0%
無回答	603	20.9%

72.9%

Q. 英語で活動を行うことに慣れている

	件数	構成比
そう思う	863	29.8%
どちらかといえばそう思う	1214	42.0%
どちらかといえばそう思わない	184	6.4%
まったくそう思わない	17	0.6%
無効	2	0.1%
無回答	612	21.2%

71.8%

◆英語の授業において、5割強の中学校外国語科担当教員が英語を話す力が高まっている、6割強の中学校外国語科担当教員が英語を聞く力が高まっていると考えている

Q. 英語を話す力が高まっている

	件数	構成比
そう思う	283	9.8%
どちらかといえばそう思う	1213	41.9%
どちらかといえばそう思わない	725	25.1%
まったくそう思わない	58	2.0%
無効	4	0.1%
無回答	609	21.1%

51.7%

Q. 英語を聞く力が高まっている

	件数	構成比
そう思う	649	22.4%
どちらかといえばそう思う	1235	42.7%
どちらかといえばそう思わない	388	13.4%
まったくそう思わない	18	0.6%
無効	0	0.0%
無回答	602	20.8%

61.5%

# 小学校英語の目標

**現在の学習指導要領の目標:** 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

## 今後の目標要点:

中学年から外国語活動を開始し、音に慣れ親しみ、

高学年では学習の系統性を持たせるため教科として行うことが 適当。言語への関心も高める。

# 小学校英語と中学校英語 接続のポイント

**教育内容の「前倒し」**

中学校 → 小学校

**教え方の「後ろ倒し」**

小学校 → 中学校

# 学習目標としてのCan-doの意味

言語形態よりも、英語で何ができるか

小・中・高の学校種ごとの教育目標を、4技能ごとに、国が示す「英語を使って何ができるか」(Can-do)の指標を用いて設定する。これにより、各学校が、具体的な学習到達目標を設定し、資質・能力に関する達成状況を明確に検証できるようにする。

今後の英語教育の改善・充実方策について(報告)～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～

# CLILの役割

# CLIL・内容重視型英語授業の重要性

## 中学校

他教科での学習内容、学校生活における活動、地域行事、生徒の体験等と関連付けることで、文法訳読に偏ることなく、互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を中心とする授業を構成することが可能になる

## 高等学校

高等学校では、中学校との円滑な接続を図りながら、国際社会の多様性に対応した目標・内容を設定し、幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う言語活動の高度化を図ることが適当である。

# 山野有紀さんの実践

## 「小学校外国語活動におけるCLILの実践」

<http://www.britishcouncil.jp/sites/britishcouncil.jp/files/eng-clil-practical-report-elementary-jp.pdf>

### 授業内容・統合教科

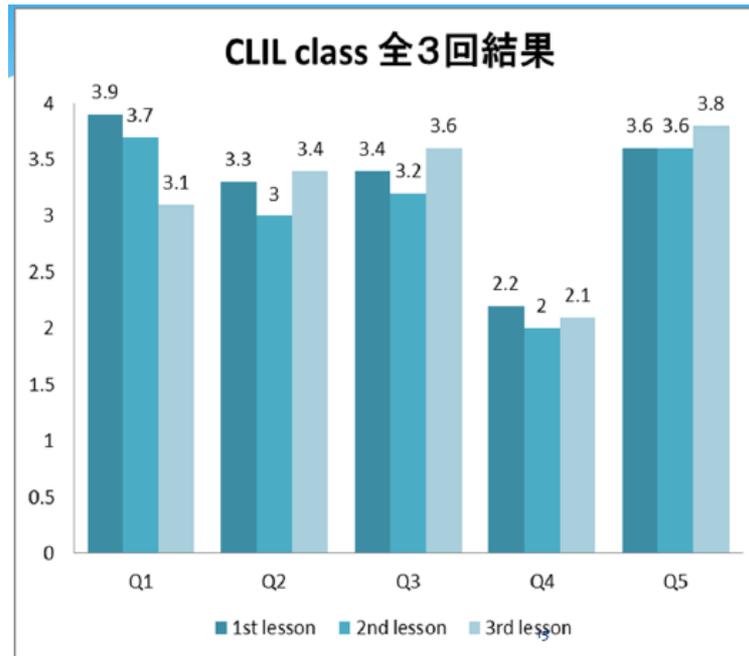
第一回目＝「好きな動物を作ろう」

(図画工作)

第二回目＝「クラス動物園を作ろう」

(理科・図画工作)

第三回目＝「野生動物たちが直面している問題を考えよう」(社会)



Q1. 授業は楽しかったですか？

Q2. 英語(言葉)が分かりましたか？

Q3. 内容(何について英語で習ったか)が分かりましたか？

Q4. 難しかったですか？

Q5. やりがいがありましたか？

(4=I agree, 3=I partially agree, 2=I partially disagree, 1=I disagree)

# STP Cambodia の授業 (地理)

World Heritage → 世界地図



# 奈良県立畝傍高校(SGH) (日本史)

現代と江戸時代の涼の取り方の違い →  
そこから現代人は何を学べるか



# References

CLIL International Research Journal (<http://www.icrj.eu/>)

CLIL Japan <http://www.cliljapan.org/>

Rixon,S. (2013) British Council Survey of Policy and Practice in Primary English Language Teaching Worldwide (<http://www.teachingenglish.org.uk/article/british-council-survey-policy-practice-primary-english-language-teaching-worldwide>)

第1回中学校英語に関する基本調査(生徒調査)2009. ベネッセ

第2回小学校英語に関する基本調査(教員調査)2011、ベネッセ

国立教育政策研究所(2005)平成 13 年度小中学校教育課程実施状況調査データ分析に関する報告書 <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/13KOUKAI/HONBUN.PDF>

言語力の育成方策について(報告書案)【修正案・反映版】

([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/036/shiryo/07081717/004.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/036/shiryo/07081717/004.htm))

文部科学省(2008) 小学校学習指導要領

文部科学省(2014) 第5回英語教育の在り方に関する有識者会議資料

山野有紀(2011)「小学校外国語活動におけるCLIL の実践」

<http://www.britishcouncil.jp/sites/britishcouncil.jp/files/eng-clil-practical-report-elementary-jp.pdf>

吉田研作、長沼君主(2003)「英語CAN-DO のアンケート調査報告書」ベネッセ

([http://benesse.jp/berd/center/open/kokusai/report/2003/07/pdf/cando\\_rep.pdf](http://benesse.jp/berd/center/open/kokusai/report/2003/07/pdf/cando_rep.pdf))

吉田、根岸、渡部、長沼、ベネッセコーポレーション国際教育事業部(2004)

「学生can-do/英語教員意識調査から見た英語教育の現状と今後の課題」ベネッセ

(<http://benesse.jp/berd/center/open/kokusai/report/2004/06/cando-rep0406.pdf>)